

「新しい生命のしるし」

マルコによる福音書 6 章 34 - 44 節

森島 牧人 牧師

今日与えられた聖書は、前回に続いてマルコ 6 章の「五千人に食べ物を与える」という小見出しのあるところで、今日はその 2 幕目、3 幕目ということになります。

休息を取って祈るために人里離れた場所へやって来た弟子たちと主イエス、ところがそこには、先回りをして一行を待ち構える群衆がいました。そんな群衆を憐れに思い、神との対話を後にして教えを説かれる主イエス。しかし、ここで舞台は弟子たちによって極めて世俗的な展開を見せることになります。

人里離れたところまで来て人々が求めたのは目には見えない「救い」でした。しかし、時間の経過もあって弟子たちは人々の空腹に目を留め、目に見える肉の糧を優先させようとして、人々が自分で食べ物を調達出来るよう、集まりを解散して欲しいと主イエスに申し入れます。これに対して主が言われたのは「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」(マルコ 6 : 37) でした。

この場が第 2 幕の中心です。主の言われたのを受けて「わたしたちがパンを買って来て、みんなに食べさせるのですか」と尋ねる弟子たち。主の指示に従って休息のために来たはずの場所で、群衆のためにその休息を犠牲にすることになった彼ら、この上食べ物の準備まで、との不満があったに違いありません。

一方、主イエスは、律法の尺度では神の国に入れないとされている人々が渴望しているのは空腹を満たすものだけではなく、心の飢えや渇きを癒す「救い」であることを弟子たちに分からせようと、舞台を世俗から救いの問題へ戻そうとされます。

「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」という弟子たちへの主の命令は、単なる食べ物のことだけではなく、生きて行くのに必要な目に見えない糧を与えなさいということでした。弟子たちにとっても人々の救済は自分たちの休息よりも緊急を要し、何よりも優先されるべきはずのことだったからです。

このような状況の中で第 3 幕が開きます。「パンは幾つあるのか。見て来なさい」との主の問いに、「パン 5 つと魚が 2 匹です」と答える弟子たち。聖書には「主は人を組みに分けて座らせるようにお命じになると五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで讚美の祈りを唱え、パンを裂いて、弟子たちに渡しては配らせ、二匹の魚も皆に分配された。すべての人が食べて満腹した。そして、パンの屑と魚の残りを集めると、十二の籠にいっぱいになった。」(同 6 : 39 - 41) と書かれています。主イエスご自身が群衆に食べ物をお与えになったのです。

この時、起こされた奇跡・・・主イエスがパンを裂き、弟子たちがそれを配っている。人々は青草の上に組になって座り、みんな満腹している。12 の籠には余ったパンと魚が溢れていて・・・幸福感に満ちたこの光景は、神の国の祝宴を思わせます。バプテスマによって新しい生命を与えられ、主の復活信仰による聖餐式に於いて主イエスの体としての命のパンをいただく私たちはみんな、この祝宴の食卓に与っているとと言えるでしょう。

この祝宴の中で、すべての人が満腹した後に残された 12 の籠を溢れるパンと魚、これはさらに多くの人々に分配されて行くべき主の恵みです。「あなたが彼らに食べ物を与えなさい」との弟子たちへの主のお言葉は、そのまま私たちキリスト者へのものです。12 の籠を溢れる主の恵みをさらに多くの人々に届けて行く。これが教会の在り方であり、教会と私たち教会員に託されていることなのです。